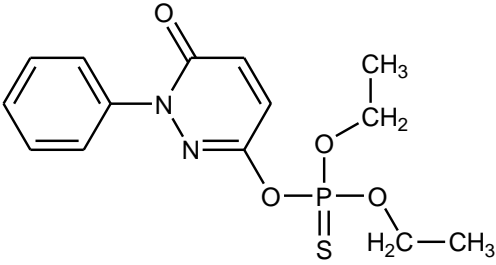


4	CAS 番号：119-12-0	物質名：ピリダフェンチオン
<p>化審法官報公示整理番号：5-5598          化管法政令番号*：2-58          分子式：C<sub>14</sub>H<sub>17</sub>N<sub>2</sub>O<sub>4</sub>PS                      構造式：          分子量：340.33</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>*注：平成 21 年 10 月 1 日施行の改正政令における番号</p>		
<p><b>1. 物質に関する基本的事項</b></p> <p>本物質の水溶解度は 100 mg/L (20℃) で、分配係数(1-オクタノール/水) (log Kow) は 3.2、蒸気圧は 1.1×10<sup>-8</sup> mmHg (=1.47×10<sup>-6</sup> Pa) (25℃) である。生物分解性(好氣的分解)は難分解性であり、生物濃縮性は高濃縮性ではないと判断されている。加水分解性による半減期は 72 日 (pH=5、25℃)、46 日 (pH=7、25℃)、27 日 (pH=9、25℃)、19 日 (蒸留水、25℃)、7 日 (自然水、25℃) とされている。</p> <p>本物質は化学物質審査規制法第三監視化学物質、及び化学物質排出把握管理促進法第二種指定化学物質に指定されている。主な用途は殺虫剤であった。農薬登録は平成 19 年 2 月 28 日に失効している。化学物質排出把握管理促進法(化管法)における製造・輸入量区分は、1t 未満とされている。</p> <hr/> <p><b>2. ばく露評価</b></p> <p>化管法に基づく平成 19 年度の環境中への総排出量は 0.002 t となり、全て届出外排出量であった。多媒体モデルにより予測した環境中での媒体別分配割合は、環境中及び土壌への排出量が最大であった地域を予測対象とした場合には水域へ 92%であった。</p> <p>本物質については 2007 年 2 月に農薬登録が失効し、2007 年の生産量は 0t、2007 年度の化管法の総排出量は 0.002t/年である。したがって、現時点での予測環境中濃度(PEC)を設定できなかった。</p> <hr/> <p><b>3. 生態リスクの初期評価</b></p> <p>急性毒性値は、藻類では緑藻類 <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> の生長阻害における 72 時間 EC<sub>50</sub> 8,530µg/L 超、甲殻類ではオオミジンコ <i>Daphnia magna</i> の遊泳阻害における 48 時間 EC<sub>50</sub> 0.51µg/L、魚類ではニジマス <i>Oncorhynchus mykiss</i> の 96 時間 LC<sub>50</sub> 7,500µg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度(PNEC) 0.0051µg/L が得られた。</p> <p>慢性毒性値は、藻類では緑藻類 <i>P. subcapitata</i> の生長阻害における 72 時間 NOEC 3,650µg/L、甲殻類ではオオミジンコ <i>D. magna</i> の繁殖阻害における 21 日間 NOEC 0.46µg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、慢性毒性値に基づく予測無影響濃度(PNEC) 0.0046µg/L が得られた。本物質の PNEC は、甲殻類の慢性毒性値から得られた 0.0046µg/L を採用した。</p> <p>本物質は、現時点での予測環境中濃度(PEC)を設定できなかったため、生態リスクの判定はできなかった。本物質については用途の動向、製造・輸入数量等の推移を把握し、環境中濃度の情報を収集する必要があると考えられる。</p>		

有害性評価 (PNEC の根拠)			アセスメント 係数	予測無影響 濃度 PNEC ( $\mu\text{g/L}$ )	ばく露評価		PEC/ PNEC 比	評価 結果
生物種	急性・慢性 の別	エンド ポイント			水域	予測環境中濃度 PEC ( $\mu\text{g/L}$ )		
甲殻類 オオミジンコ	慢性	NOEC 繁殖阻害	100	0.0046	淡水	-	-	× (▲)
					海水	-	-	

#### 4. 結論

結論		
生態リスク	現時点での生態リスクの判定はできなかった。本物質については用途の動向、製造・輸入数量等の推移を把握し、環境中濃度の情報を収集する必要があると考えられる。	(▲)

[リスクの判定] ○：現時点では作業は必要ない、▲：情報収集に努める必要がある、■：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない  
 (○)：情報収集を行う必要性は低いと考えられる、(▲)：情報収集等の必要があると考えられる